

33

杏雨書屋と所蔵資料（2016年以降 新収資料）

瓢野由美子，百瀬 祐

武田科学振興財団杏雨書屋

1923年，関東大震災により貴重な古書籍が灰燼に帰したことを嘆いた武田長兵衛商店（後の武田薬品工業株式会社）店主・五代武田長兵衛が，私費を投じて古典籍の蒐集を開始したことが杏雨書屋の始まりである。その蒐集事業は六代武田長兵衛にも引き継がれ，内容は医学書・薬学書ばかりでなく漢籍・仏典にも及んだ。戦前昭和期に早川佐七旧蔵書椋コウ〔草冠に考〕書屋本，宍戸昌旧蔵書，内藤湖南恭仁山莊善本，対馬守護宗氏由来の磧砂版大蔵経，羽田文庫（敦煌文書），藤浪剛一旧蔵乾々齋文庫が所蔵となり，戦後には三木栄朝鮮版医書，佐伯理一郎古医学資料（墨跡・書簡），中尾万三文庫等（以下省略）が加わった。集められた資料は1977年に六代武田長兵衛から，1977～78年に武田薬品工業株式会社からそれぞれ武田科学振興財団に寄贈され，1978年4月，その名を継承した図書資料館「杏雨書屋」が開館した。さらに1992年には六代長兵衛夫人から追加で資料の寄贈を受けた。

その後常陸弥次旧蔵書，杉立義一旧蔵古医学資料，松木明知旧蔵医学洋書，渋江抽斎家系文書，二宮陸雄旧蔵書，田中彌性園旧蔵医書，東亜医学協会旧蔵石原保秀文庫，小曾戸洋旧蔵医学資料，奥田謙蔵・藤平健旧蔵品，大塚敬節旧蔵修琴堂文庫，日本医史学会旧蔵医家肖像，華岡鹿城大坂華岡塾合水堂文庫等が収蔵された。これら杏雨書屋のコレクションについては，2015年の本会第116回学術集會会長講演において小曾戸洋会長（当時）から紹介されている。今回は2016年以降に収蔵された主な資料について解説する。

【温故堂（旧温知堂）文庫】2016年619点入庫，他に27点追加入庫。江戸後期の漢蘭折衷医難波抱節とその子経直旧蔵書で，1,000余点を蔵していた労働科学研究所から市場に出たものの一部。抱節自筆稿本『傷寒論金匱方解』，同『補正類聚方』，抱節写『医事古言』，経直自筆『傷寒論新註』等を含む。

【福井崇蘭館本医学書】2014年から2018年にかけて154点（830冊）が文化庁より寄託。『方氏編類家蔵集要方』，『経史証類備急本草』等宋版6点，『三因極一病証方論』，『新編証類図註本草』等元版16点，『新編証類図註本草』，『寿域神方』等明版67点の外，朝鮮本，和刻本，写本を含む。

【羽田文庫（追加）】2018年，前年秋に旧羽田邸で発見された古代ウイグル語仏典断片，チベット語仏典，漢文文書断片等116点が入庫。

【矢数文庫】矢数道明旧蔵資料が2019年に37点，2021年に54点入庫。浅田宗伯筆「賀温知社員集文」，同「温知医鬻記」，浅田宗伯，森立之，香川修庵，多紀元堅等「七絶」，詩文集『仙桃集』，曲直瀬道三書状2通，張仲景肖像（古画）等を含む。

【尾池文庫】讃岐の医家・尾池家に伝わり，縁戚の中澤家に保存されていた資料10点が2020年入庫。立誠・薫陵・桐陽三代の書，後藤昆山，中井竹山，菅茶山等の医家・儒家との書簡等を含む。

【長野文庫】長野仁収集の医薬史料から選りすぐりの28点が2021年に入庫。多紀元堅賛・谷文晁画「神農図」外，神農・張仲景等医聖肖像，華岡青洲，村井琴山，香川修庵，宇津木昆台，貝原益軒等医家・儒家の書，山科家・加茂家の口宣案等を含む。

【和智・新妻文庫】漢方医・浅田宗伯の門人新妻莊五郎の曾孫・和智明彦旧蔵の新妻家伝来史料263点が2022年に入庫。『医学入門』（万曆3年），『青囊藥性賦』（明時代）等中国刊本，『医心方』（江戸写本）等の和写本，和刻漢籍・和書，莊五郎案・宗伯定「浅田宗伯先生定案（23枚）」，『金匱玉函要略方論弁正』等浅田宗伯関連資料，新妻家関連資料の外，掛軸3点，古地図2点を含む。